

## 概要

医療・健康情報活用基盤（EHR）の効果・課題について検証を行うため、各実証フィールドにおいて、共通のアンケートを実施。

## アンケート項目

### 医療機関・薬局・介護施設

- EHRに対する満足度（5段階評価）
- EHRの利用頻度（5段階選択式）
- EHRの活用による重複検査・投薬回避の有無（選択式）
- EHRの継続的利用意向（選択式）
- EHRに関する費用を負担すべき主体（自由回答式）
- EHR利用の目的（選択式+自由回答式）
- EHRによる効果とその内容（選択式+自由回答式）
- EHRの課題・評価する点（自由回答式）
- EHRに対する適正な月額利用料（選択式）

### 自治体

- EHRの効果・影響の有無とその理由（3段階評価）
- EHRの継続的利用意向（選択式）
- EHRの継続的運営のために支援しうる予算額（選択式）
- EHRの課題・評価する点（自由回答式）
- 自治体によるEHRの活用可能性（自由回答式）
- EHRに関する費用を負担すべき主体（自由回答式）

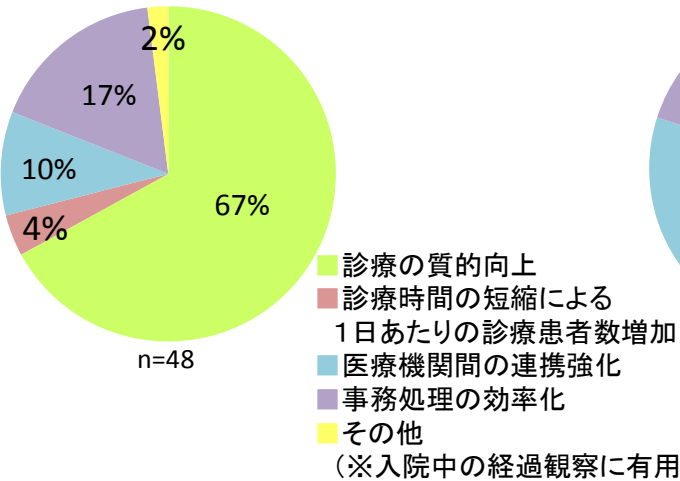
### 利用者

- EHRに対する満足度とその理由（選択式+自由回答式）
- 医療情報の本人活用サービスについて
  - ・満足度、利用頻度、継続的利用意向、適正なサービス利用料（選択式）
- EHRの課題・評価する点（自由回答式）
- EHRの継続的利用意向（選択式）
- EHRに関する費用を負担すべき主体（自由回答式）

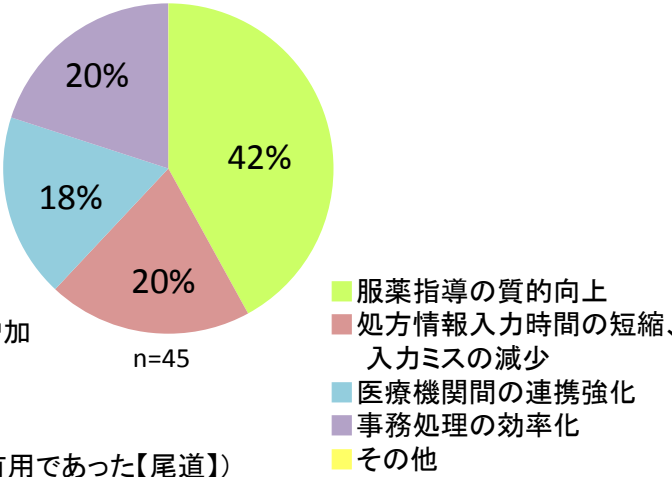
# 共通アンケートの取りまとめについて（主な結果）

## 効果

### 医療機関

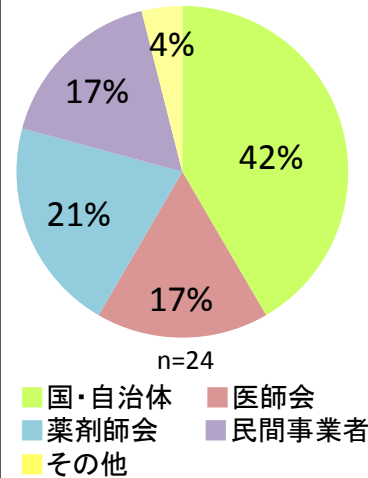


### 薬局



## 費用を負担すべき者

### 香川



### 尾道

- ・受益者
- ・地方自治体
- ・診療報酬への反映
- ・現時点では病院・診療所、将来的には保険点数を加算
- ・各参加施設
- ・一義的には患者自身とは思いますが現実には不可能。住民の利益という観点から地方自治体
- ・患者と保険

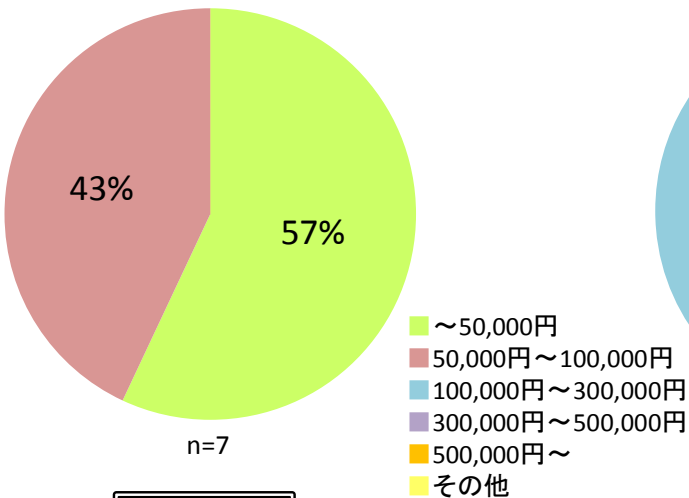
### 出雲

- ・利用者全員（患者・医療者）
- ・国など自治体（行政）
- ・調剤薬局
- ・患者か行政
- ・カード作成は利用者負担。サービスに関する費用は情報を利用する医療機関が負担し、行政も補助
- ・EHRは医療機関。PHRは自治体が負担し、住民が受益に応じて分担

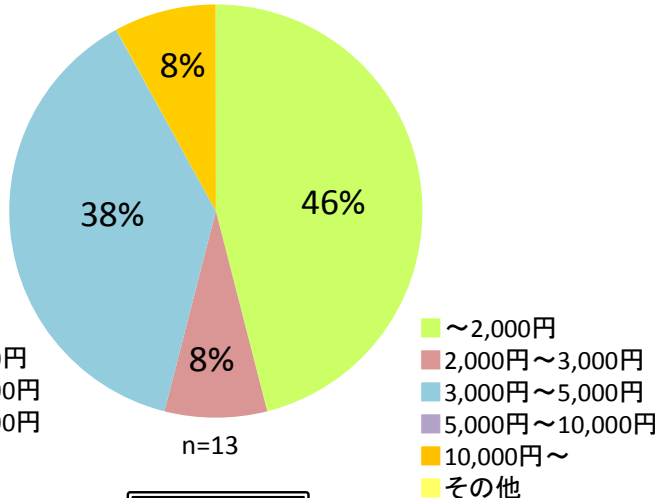
※自由回答のデータをグラフ化したもの

## 適正な月額利用料

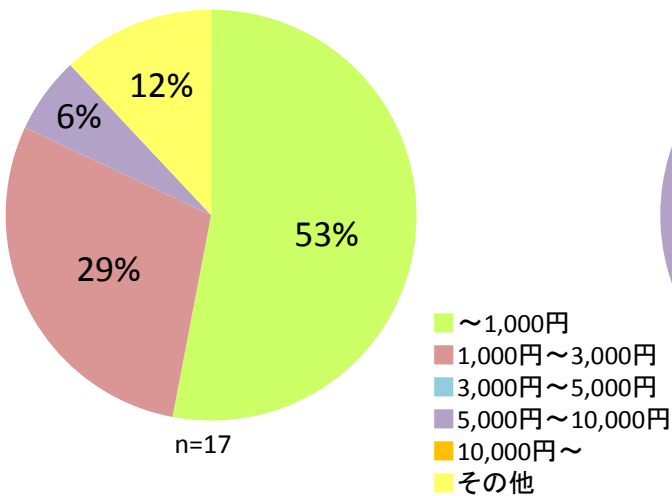
### 病院



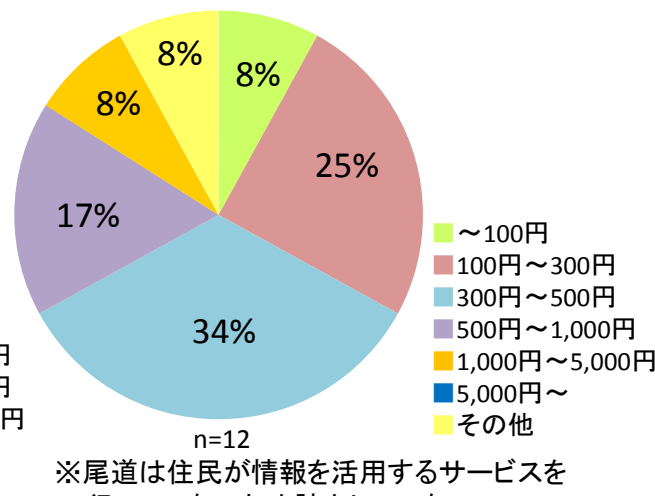
### 診療所



### 薬局



### 住民



## 課題・評価する点（抜粋）

### 香川

- 課題
  - ・おくすりカレンダーをスマートフォンで活用したい（住民）
  - ・受け取った薬剤の写真や効能、効果及び注意点なども参照できると良い（住民）
  - ・医療費などがお薬以外もまとめてわかると便利（住民）
  - ・参加医療機関数・患者数を増やしてもらいたい（薬局）
- 評価する点
  - ・薬局から送信される調剤実施情報が閲覧できたことによるジェネリック医薬品への変更状況の把握は診療の充実に繋がる（医療機関）

### 尾道

- 課題
  - ・皮膚科・眼科・耳鼻科などの薬剤はお薬手帳に記載がないことが多いので、診療所間の連携が拡大すると良い（診療所）
  - ・病院の病棟、外来での生活指導内容についての情報（食事等）があると良い（介護施設）
  - ・患者の同意について、治療を優先する立場を強調し、院内掲示にとどめ、希望しない場合に申し出る形にするのとよいのではないかと（病院）
- 評価する点
  - ・中核病院での検査結果が閲覧できるので、検査の重複が避けられて有用である（診療所）
  - ・紹介した患者のCT画像を参照でき、入院中の患者の病状把握に役立った（診療所）

### 出雲

- 課題
  - ・処方情報の電子化のクリック数が多い。PC操作に時間をとられる（医療機関）
  - ・申し出がないと患者がカードを持っているか分からない（医療機関）
  - ・患者が暗証番号を覚えている必要があり、患者の暗証番号入力の負担が大きい（医療機関）
  - ・薬の引換票と処方箋を一緒にFAXするが、引換票と処方箋との突合が手間である（薬局）
- 評価する点
  - ・自分の情報を家にいながら見られるのは便利。自分の健康にもより興味を持てる（住民）